

赤塚溜池公園 自然回復事業検討会の中間報告 その2

眞崎 哲二

赤塚溜池公園の自然回復事業検討会も回を重ね、湧水水路と池の全体像および管理のあり方などについての方向性が見出されました。検討会は、7回目をもって終了となりますが、今後住民参加による池づくりやこれからの管理方法など、さらに議論を深めていく必要があります。8号の山下さんのご報告に引き続き、「自然回復事業検討会の中間報告その2」として第4回検討会以降の内容を総括してご報告します。

検討会の日程と主な討議内容は以下の通り。

第4回検討会：平成10年9月13日 美術館講義室、出席者17人+事務局

目指す自然の姿のイメージを模型を作って具体化しました。

第5回検討会：平成10年10月11日 美術館アトリ工、出席者14人+事務局

前回作った模型をもとに湧水水路を含めた水の流れについて議論しました。

第6回検討会：平成10年10月25日 美術館アトリ工、出席者16人+事務局

湧水水路とコンクリート池の改修案について議論しました。

第7回検討会：平成10年11月3日 美術館講義室、出席者13人+事務局

湧水水路と小池の管理について議論しました。

模型づくりなどを通して湧水水路と小池の将来像がより具体化してきました。小池の水源は、

乗蓮寺下のマンホールから導水されている湧水とし、現在使用されている井戸水は非常時の対応として常時は使用しないこととなりました。また、湧水水路も含めた将来像について、美術館から溜池へ、より自然な水の流れに近づけることと、水路と小池・溜池をも含めた一体的な整備の理想像について議論がなされました。

湧水水路とコンクリート池（小池）の将来像

現在湧水水路の水は、美術館の裏で美術館側の側溝にかなりの量が漏れています。もちろん溜池までは流れていません。このままでは、小池への導水も不可能です。

湧水水路の水漏れをなくして水路に水を流すには、これまで矢田さんがやってこられたように定期的な水路の補修・管理を行なっていかなければなりません。人の手をかけないと水が流れなくなることが証明されました。しかし、自然回復のために人の立ち入りを制限するという点では初期の段階で恒久的な対策が必要となります。もちろん、水路から地中への水の浸透や斜面から水路への水の湧き出しなど、自然の循環系を保全する必要もありますが、検討会では湧水を無駄なく利用することを大前提に、水漏れの激しい美術館の裏を中心に水路の防水工事を行なうことで合意がなされました。

小池の方はどうでしょう。八ツ橋から手前側が今回の工事対象部分です。底のコンクリートと石を取り除いて防水工事を行ない、深みや浅

瀬のある、より自然な池へと改修されます。

水は前述の通り湧水水路から引いてきます。ただし、現在、小池の水を溜池に放流するために使用されている排水管については、土砂の堆積による閉塞の問題などから使用しない方向で検討してほしいとの要望が公園課からあげられました。

これを受けて、湧水水路から引いた水は一旦小池に入り、再び湧水水路に戻るという水の流れになりました。結果的には湧水水路の下流部を活かせるようになり、水路と小池が一体となった、より望ましい形になりました。また、梅まつりのステージの基礎として八ツ橋の横にコンクリートブロックが設置されます。

今後の活動と管理について

湧水水路の工事に先だって、現在の植生や生き物などの調査を行なうこと、小池の防水工事（荒木田土を張る）を来春3月頃に住民参加で実施することが確認されました。

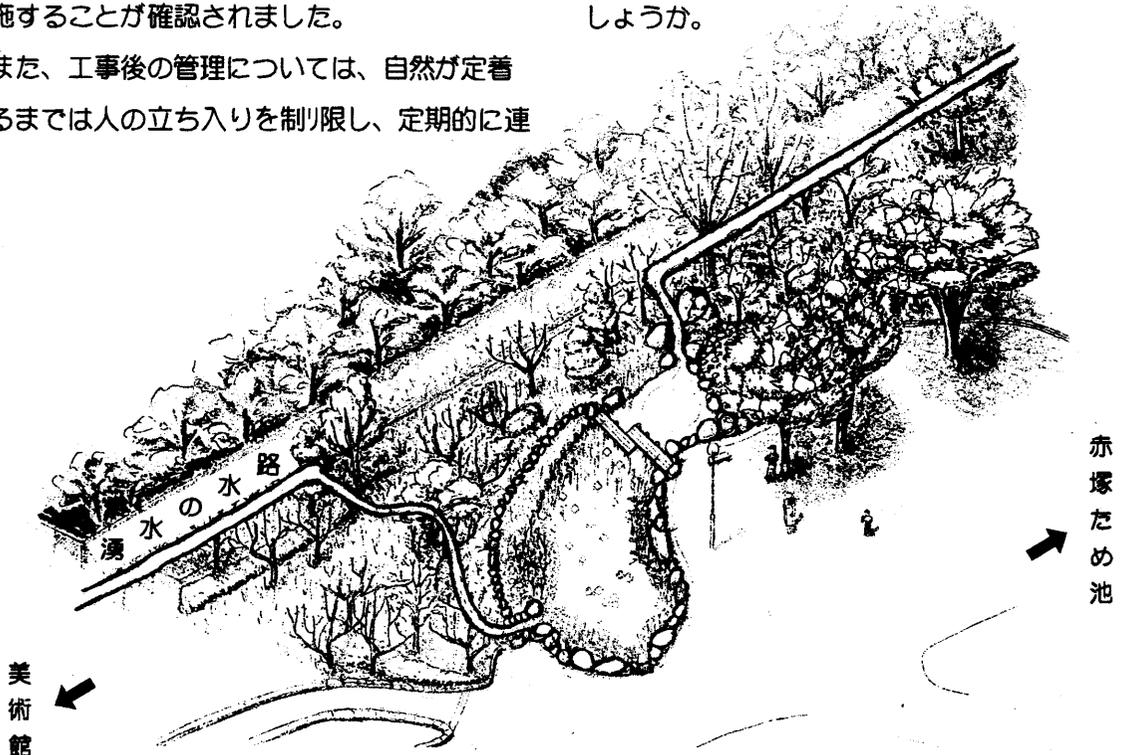
また、工事後の管理については、自然が定着するまでは人の立ち入りを制限し、定期的に連

絡会（仮称）を開催して方向性を見出していくこととなりました。とにかく経験のないところからのスタートなので、いろいろと経験しながら検討していくことになります。

7回開催された検討会は一旦終了しましたが、これからの管理、観察や地域へのPRなど引き続き議論の場が持たれることとなります。

この赤塚溜池公園の自然回復地で、どのように自然が回復していくか、どのような条件（環境）が必要なのかなど、笹目橋緑地の実験池、乗蓮寺下のトンボ池（個人的には自然観察池と呼びたい）、11月1日（日）に大門に新しく掘られた池と合わせ、実験的な取り組みとして専門家も交えた詳細な観察を続けていかなければならないと思います。

ビオトープなどの先進事例は多々ありますが、都市の中の自然回復に関わることでできる場が得られたことは、非常に幸運なことではないでしょうか。



9月26日 秋の草刈りと中学生ボランティア研修受け入れ

かがみ りょう

参加者：高野、松本、秋葉、金井、朴人、私
かがみ。それから中学生ひとり、研修スタッフ
ひとり、ビデオ制作会社スタッフ4人。あやし
い天気のためか参加者は少なめでした。

9時半頃から、台風で水路からあふれたごみ
や枯れたアシの山などを片づける。

中学生らが来たところで刈り取りたい帰化植
物、守りたい在来種などの説明をして草刈りを
する。

刈り取ったのは、オオブタクサ・セイタカア
ワダチソウ・オナモミ・オオアレチノギクなど、
在来種を駆逐してしまうタイプの帰化植物を主
とした。

実験池の周囲を済ませたところで生き物の観
察とする。3号池を網ですくうとヤゴが見られ
た。すくうたびに2匹は入っている。池のふち
の草にもアキアカネがきていた。2号池ではオ

タマジヤクシ（トウキョウダルマガエル）とザ
リガニが入ってくる。また周囲の草原にはイナ
ゴ（コバネイナゴ）がたくさん見られた。春に
みんなで作った池と、それによって確保された
草原をいろいろな生き物が利用してうれし
かった。



荒川河川敷・生物生態園でオオタカ、ツミを確認！！

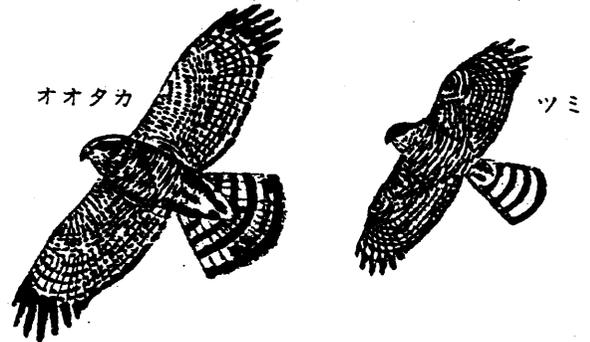
いたばし野鳥クラブ 栗林 菊夫

10月17日（土）は台風で大雨が予想され
ましたが、意外や雨は小降りでした。戸田橋を
もぐり野球場にくとモズが囀っています。生
物生態園は作業中で、水面には何もいず、水路
にコサギが1羽、えさを取っていました。いつ
もならここから土手に上がり、早めの昼にする
ところですが、雨も降っていましたので休まず
先に進む・・・と・・・高圧鉄塔の電線近くで
何かカラスに追われて飛んでいます。大き
さはカラスと同じ位。オオタカです。色からする

と若鳥のようで、生態園にいたカラスも舞い上
がり、オオタカを追いかけ騒がしくなりました。
多勢に無勢で、オオタカは逃げるように川側か
らワンドの柳の中に止まったようです。カラス
だけが姿を見せ、20羽ほどワンドの上を巡回
していました。この直後、高圧鉄塔の電線を見
ると何かヒタキ類のように止まっています。別
に止まっている鳥と大きさがちょっと違うよう
に見えています。しかし、雨も降っていますの
と双眼鏡だけなので、いまいちよくわかりませ

ん。しばらく見ていましたら飛び立ち、すると近くにいたカラスが追いかけて始め、よく見るとツミでした。

これで、生物生態園の周辺も含めた猛禽類の確認種が2種増えたこととなります。河川敷に板橋区が造成した生物生態園が、これらの猛禽類などを呼び寄せていることになり、たいへんな成果です。ですので、上流側にこれから作られる中規模自然地が加わりますと、ますます自然の厚みが増してくることになり、様々な生物たちがこの場所に姿を見せることでしょう。



とんぼ池（とんぼがやってくる池）づくり

赤塚公園の大門地区のがけ下に光が差し込む所に池があった。最近は大雨の後だけ存在する池である。そこには水辺に生える植物のセリやアシが生えているが、水がたまってすぐ抜けてしまう。そこで水が抜けないように、一番深いところを掘って遮水し、いつも水がたまるようにすることにした。

11月1日（日）10時から14時くらいまで、途中お弁当休憩をはさんで“とんぼ池づくり”と斜面からの雨水をとんぼ池に引く“溝づくり”をした。参加者は大人約11人、子ども約4人であった。

まず、池をつくる場所の表土をはいで仮置き。次いで池掘り。ガラが多く掘るのが大変だったが、60cmほど掘ったら地下水がでてきた。

今度は、遮水するために、掘ったところに白い粉末ベントナイト（乾燥した粘土）をまき、その上に土をかけた。

その上をみんなで踏んで少し混ぜてできあが

小寺 正明

り？。池のふちに並んで記念撮影をした。今後“とんぼ池”になるか様子を見ていきたい。“とんぼ池づくり”に参加する人は応募してください。

溝づくり当日だけでは完成せず、今後もつけていくことにした。次回はさらに多くの人の参加を得たい。



昔の赤塚の風景を聞く

坂本 郁子

赤塚ボランティアでは、自然回復の指標となる、昔の自然を知りたいと考え、平成10年9月26日、城址の上にお住まいの沖田萬司さんと、8丁目の本橋金蔵さんのお二人から城址周辺のお話をうかがいました。詳細は水と緑の会ホームページをごらん下さい。

写真は本橋さんからいただいた写真のひとつ。区画整理の始まる前の昭和40年頃、今の美術館駐車場裏の山から溜池・城址方面を見たところで、今でも面影は残っています。



城址周辺は区画整理で様変わりしましたが、城址の山は、地形的には昔と同じです。上の広場は畑でした。斜面は赤松林で、戦争中燃料に松根油をとるために、松を切ってしまいました。

動物はタヌキ（平成8年）、キツネ（昭和初期）、イタチ（昭和50年頃）、フクロウ（40年代）がいました。ニリンソウはそんなに多くありませんでした。

東京都東部公園緑地事務所に要望書を提出しました

小松 容子

10月26日（月）、会長の鈴木さん、赤塚の森ボランティアのリーダーの島井さん、小松の3人で都庁議長室で要望書を提出しました。赤塚の自然回復を進めていくためには、行政と市民が共同で行うことが必要と考え、会の目的・活動内容を説明してきました。

当日は、建設局公園緑地部の方がみえ、その日のうちに東部公園緑地事務所から連絡をいただきました。内部で要望書についてどのように対応できるか検討し、できれば年内に話し合いの場を作ってください。

下記に要望書の内容を紹介します。

都立赤塚公園（赤塚5丁目城址公園）の整備等について（お願い）

1) 公園の長期管理計画について

どのような林が望ましいのか十分検討を行った上でゾーニング・管理をする必要があるのではないかと

2) 情報公開と住民意見の反映について

公園の改修にあたっては、計画の情報公開、意見を述べる場の設定をしてください。

3) 具体的な公園の管理に対する意見

- | | |
|-------------------------|------------------|
| ①斜面に人の立ち入り防止用保護柵の設置 | ②一律な草刈りの見直し |
| ③乗蓮寺下（公園の石垣下）湧水の有効活用 | ④自然林の拡大と住民参加のお願い |
| ⑤公園内では腐植土等による雨水の自然浸透に配慮 | |

荒川クリーンエイド'98 in 笹目橋会場

木村 延明

さる10月25日(日)荒川クリーンエイド'98が荒川下流域の約20会場で一斉に開催された。板橋地区でも笹目橋下流右岸の河川敷付近で、いたばし水と緑の会(荒川自然回復団)、いたばし野鳥クラブ、板橋自然と遊びの会が中心となって河川敷のゴミ拾いを行った。

この日は秋晴れの好天に恵まれ、約50人の参加者があった。また、板橋区みどりと公園課の職員の方もボランティアとして10名程度参加していただいた。

1時間半かけて、河川敷のいたるところに散乱している多くのゴミを拾い集めた。やはり、荒川へ遊びに来た人達や釣客などのマナーの悪さが原因なのであろうか?。同時に、粗大ゴミの回収も行った。予想通りタイヤなどの車両関係の粗大ゴミが目立った。河川敷をゴミ捨て場と考えているのであろうか?

様々な問題が残るゴミ拾いを終えて、参加者全員の記念撮影で午前中の部は完了となった。

昼食時には、いたばし野鳥クラブ栗林さんのご自慢のとん汁がふるまわれた。

午後は、加々見さんの引率により、笹目橋緑地の実験池周辺の生物や植物などを観察した。実験池にはカエルやザリガニなどの生物がいて、子供たちは喜んで水遊びを楽しんでいた。程良く観察した後で解散となった。

今回も収集したゴミの後処理について、初期の打ち合せ段階で行政担当者間で責任問題がた

らい回しされたことは、非常に残念でした。このことをつけ加えておきます(最終的には、各行政サイドで役割分担していただいたおかげで問題は回避できましたが・・・)。

参加者の皆様、準備段階で協力してくださった方々、どうもご苦労さまでした。

平成9年		平成10年	
飲料缶	1,045	飲料缶	808
プラスチック片	490	紙片	645
紙片	413	発砲スチロール片	458
タイヤ	18	タイヤ	17
自転車	5	ポリタンク	9
クーラー	5	発砲スチロール	6



集めたごみの山と参加者

活 動 の お 知 ら せ

定例会は毎月第一木曜日(12月3日、1月7日)産文ホールB1「サンイチ」で(食事も)どなたでも参加できます。

荒川自然回復団

●冬の映画会「ニホンザル・モズの物語」

日 時：12月5日(土) 14時から

場 所：区立氷川図書館 3階視聴覚室

会 費：200円(子供は無料)

連絡先：栗林(3959) 2072

●荒川・野鳥調査観察会

日 時：12月19日(土) 9時30分

集 合：埼京線浮間舟渡駅

持ち物：弁当、温かい飲み物、双眼鏡、図鑑、
帽子、手袋、防寒具

参加費：200円

連絡先：栗林(3959) 2072

●冬鳥観察会(エコポリスセンター主催)

日 時：12月12日(土) 14時

集 合：舟渡区民センター第一リヤホール

問合せ：エコポリスセンター-杉田(5970) 5001

赤塚の森ボランティア

●世話人会 おやすみします

●晩秋の自然調査

乗蓮寺下の池と周辺の生物調査をします。

日 時：11月29日(日) 10時~12時

場 所：板橋美術館前集合

連絡先：釣巻 3961-2875

●落ち葉を集めて腐葉土づくり

落ち葉がたまって、朽ちてぼろぼろになり、だんだん土にかえていくような場所があると、カブトムシがやってきます。しかし、城址公園内には意外にこのような場所がありません。昨年つくった落葉だめにいる生きものを調べ、新しい落葉を集めて、腐葉土にします。

日 時：12月5日(土) 午後2時~4時

場 所：城址公園西側広場(郷土資料館先)

連絡先：坂本 3579-2598または3952-6688

ヤゴネットに参加してください

荒川流域子ども環境ネットワーク(通称ヤゴネット)をスタートさせます。いたばし荒川自然回復団も、子ども群団をつくって参加しよう。別紙チラシのように第1回ヤゴネット子ども環境会議を1月17日(日)に開きます。もちろん赤塚の森ボランティアや学校、エコクラブ、個人として参加することもできます。

(いたばし荒川自然回復子ども群団として参加できる子ども(小学3年~高校生)、およびサポーターは、かがみ5944-7505、fax5944-7506までご連絡ください)

●新年会を兼ねて、講師をお招きして勉強会・意見交換会を開きます。テーマ等ご意見をお待ちしています。